

慈雲

19号

2011/9

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る
百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

<http://www.zuirenji.net/>

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



時阿闍世
問守門者
父王今者
猶存在耶

【『觀經』の言葉】

時に阿闍世、守門の者に
問わまく、「父の王、今に
なお存在せりや」と。

阿闍世王は、自らが幽
閉した父王のところへ
行き、その門番に、「父
王はまだ生きておられ
るか」と問うのである。
どんな人間でも三週間
も飲まず食わずでいれ
ば生きていられるわけ
がない。すでに亡くなっ
ていることは確信しな
がらも、「もう絶命した
か」と言わずに、「今で
も達者でおられるか」と
問うのである。ここに阿
闍世の複雑な心境が隠
されている、と善導大師
はみておられる。阿闍世
王の中にまだ人間性が
残っているのである。そ
れが仏法と関わる唯一
の門なのである。

【「正信偈」に学ぶ】

今回は正信偈の冒頭の二句

歸命無量寿如来
南無不可思議光

を学びたいと思います。

無量寿如来に歸命し

不可思議光に南無したてまつる

と読みます。歸命も南無も同じ意味で、
歸依する、信順することです。無量寿
は計り知れないほど長い時間というこ
とで、如来はそのはたらきというほど
の意味です。

不可思議は私たちの考えの及ばないと
いうことで、その働きを光で表現して
います。

つまり、阿弥陀仏のお徳は

寿 時間的にも無限
光 空間的にも無限

であり、そのようなお徳をもつ阿弥陀
さまに歸依、信順いたします、という
表白の言葉です。

これから正信偈を書くにあたっての親
鸞聖人の表明の言句であり、それが私た
ちを導く道標であります。

「南無阿弥陀仏」のお念仏にはこの二
句の意味が込められています。

長い歴史とそこに開かれる世界とい
うことですが、先日テレビで高校生クイ
ズ日本一を決める番組をやっています
た。決勝戦では東西の名門進学校が激突
しました。結果は東京のK高校が優勝し、
兵庫代表のN高校は惜しくも敗れまし
た。試合後のインタビューでN高校のリ
ーダーの生徒は涙ながらに「ここまでや
ってこれたのは応援してくれたみんな
のおかげです。ありがとうございます
た」と言っていました。「おかげ」とい
う言葉は日常的によく使いますが、それ
ほど日本人の血肉となっているのだと
思います。

日本人のもつ「おかげさま」は親鸞聖
人の教えでは他力ということですが、私
たちは知らず知らずのうちに使ってい
ます。「他力」の宗派であるとかないと

かに関わらず、これが日本人そのもので
あるといえるのではないのでしょうか。

長崎のある学校の先生が

叱る前に悲しむ
ほめる前に喜ぶ

ということをおっしゃいました。
子供を叱るということはある、しかしそ
の前に自分はこの子のことを見てやれ
てなかったなあという悲しみを持つこ
とがあるだろうか。

なかなかできないと思います。

しかし、それに気づくとき心もその場の
空気もかわります。自分が苦労したこと
を言わない人はいませんが、苦労かけて
いたなとはなかなか気がつきません。

長い間（無量寿）のお育て（如来）に
気づかせていただきました（歸命・南無）
そのとき私のせまいはからいを超えた
広々とした世界（不可思議光）を身に感
じることができません。

無量寿の恩徳の感じられたところ、そ
の感じられた世界はどこまでも広がる
広がりを持つ、それを無量光という。

さびしいとき

わたしがさびしいときに、
よその人は知らないの。

わたしがさびしいときに、
お友だちはわらうの。

わたしがさびしいときに、
お母さまはやさしいの。

わたしがさびしいときに、
ほとけさまは
さびしいの。

金子みすゞ

さびしいとき

わたしがさびしいときに、
よその人は知らないの。

わたしがさびしいときに、
お友だちはわらうの。

わたしがさびしいときに、
お母さんはやさしいの。

わたしがさびしいときに、
ほとけさまはさびしいの。

今月の掲示板は金子みすゞさんの詩
を載せました。

金子さんの詩集は、小学校の教科書や
テレビ・雑誌などでも取り上げられ広く
知られています。

詩人としての金子みすゞさんはみな
さんご存知ですが今回は真宗のご門徒
であり念仏者であった金子みすゞさん
をお伝えしたいと思います。

以前、「本山(東本願寺)から出された
出版物で金子みすゞさんが報恩講につ
いての思い出を書かれていました。

いまと違って娯楽が少なかったその
当時は、報恩講になるとお寺の境内に
出店がならび、大人も子供もきれいな
着物を着て、金子みすゞさんも普段着
ている着物でなく赤い余所行きの着物
を着せてもらっていつもと違って夜が
更けるまでお参りにされたそうです。

その文章がとてもきれいな文章で、
小さい金子みすゞさんが赤い可愛い着
物を着て、美しくお化粧されたお母さ
んに手をひかれ瞳をきらきらさせなが
らお参りされた様子が目に浮かぶよう
でした。

幼いときからというか、金子みすゞ
さんに先立ってお念仏のあったお家に
生まれ育ってこられたなかで、金子さ
んにとって「ほとけさま」というのは、
いつも「わたし」と共にあり、「わたし」
の悲しみを共に悲しんでくださる存在
だったのでしょう。

坊守

經典には「今になお存在せりや」とあるだけであるが、善導大師は「これはこれ闍王意密の問なり。」と註釈し、ここに阿闍世が心に隠しているものがあるとみておられる。私なら何も気づかずに読み流すしかない。善導大師がいかにきめ細かい読み方をしているか、また人間を観察する眼をもっているかを知らされる。

ダイバダツタの誘いに乗ったとはいえずであるビンバシヤラ王を幽閉して殺害したのは自分である。ただでさえ、王位を奪って自ら王になったのである。父と子という天性の義にも逆らった。内心ではすでに死なれたと思っではいるが口には表わさず、「なお存せりや」と問う。これは全く世間のそしり、永く悪逆の名がつくことを恐れたのである、と善導大師は言われる。阿闍世の心の中に全くの悪人になり切れず恥ずかしさやいたみといったものが残っている。後にお釈迦さまと出会い救われるのであるがその手がかりがすでに悪逆の最中にあっただのである。

【お知らせ】

九月二十日（火）午前九時より

仏具のお磨き^{みが}をいたします。

九月二十三日（金祝）

秋の彼岸会法要を勤修します

午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話

講師 住職

四時 お齋

十一月十三日（日）

報恩講を勤修します。

報恩講に引き続き、今年も帰敬式（おみそり）をとりこおないます。

つきましては、受式をご希望の方は瑞蓮寺又は慈雲会に九月三十日までにお申し込み下さい。

~~~~~ . ~~~~~

瑞蓮寺における

「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」を来年平成二十四年四月二十一日（土）に厳修いたします。

ただいまの計画では、親鸞聖人ゆかりの六角堂から瑞蓮寺までの参道列（行列）を組みます。それに参加していただけるお稚児さんを募集します。詳細は後日「慈雲」にて案内いたします。

~~~~~ . ~~~~~

【編集後記】

涼しくなり、過ごしやすくなったと思つたのもつかの間、またも蒸し暑い日が続いておりますが、お変わり御座いませんか。

震災から半年になると思つたやさき、台風十二号による災害で大勢の方が亡くなつておられます。本年も残り三ヶ月少しになりましたが、このような悲しい出来事がないよう祈るばかりです。

長塩浩史

~~~~~ . ~~~~~

瑞蓮寺のホームページができました。皆様一度ご覧下さい。

<http://www.zuirinji.net/>